

神学校週間によせて

2016年6月26日 [日] ~ 7月3日 [日]

神学校週間・・・1978年日本バプテスト連盟全国壮年会連合 第1回総会にて1979年度より6月第4週の1週間を「神学校週間」とすることが決議されました。

「」の位置！

日本バプテスト連盟常務理事 吉高 叶

バプテストが産声をあげたのもっとも初期の時代には、いわゆる「聖職者・教職者」としての牧師はいませんでした。バプテストたちは、既成の教会から飛び出した人々であり、「反社会的な人々」だと烙印を押された集団でしたから、当時の「エリート公務員」であった聖職者たちが、この群れに参加することなどあり得ないことでした。

けれどもバプテストたちは集まって礼拝し、み言葉を語り合い、聞き合い、主を賛美し続けました。主が「この世の知恵や力を無力なものとなさるために、無学なものを選び無学なものを選ばれる」(1コリ1・27)ことを信じて。

やがて彼らは、説教や牧会に従事する専従者を、自分たちの仲間の中から擁立し、牧師として立てていきました。「上からこちらに向かってくる聖職者」ではなく、「こちらから共に神に向かっていく回勇者」としての牧師が誕生していったのです。

今も、牧師その他の教職者が「この位置」に立つこの意味は大きいと思います。バプテストの「牧師(教役者)の立てられ方」の精神は、たとえ時代が変わっても、原理として大切に心に刻んでおくべき特性であり、バプテストの嗣業のひとつではないでしょうか。神学校に送り出すことが教会の出来事であるように。神学校で学ぶことが教会の出来事の中で生きていること。そして教会に立てられる事として赴任・着任があることを。私たちは、教会と献身と神学校の関係を、常にバプテスト的に結びつけていきたいのです。そして、神学校をおぼえ、神学生たちをおぼえ、祈り続ける者でありたいと思います。



神学生の証し

たしかなこと

西南学院大学院神学研究科2年

青木 紋子 (南光台キリスト教会推薦)



「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全なものになっていくわけでもありません。何とかして捕らえよう努めているからです」(フィリピ3・12)。

全国諸教会の皆さまのお祈りとご支援とを感謝申し上げます。「神さまを伝える者になりたい」との思いが与えられ、まったくもって主の導きにより、西南学院大学神学部での学びの時が与えられ、早3年が過ぎ、いよいよ最終学年の時を迎えることになりました。この3年間での学びと研修の時を感謝いたします。

西南・神学部の特徴は、自己絶対化からの、身を切るような思いをしつつの脱却だと思えます。最初の年は、「母教会こそが普通の教会」「自分の信仰こそが真の信仰」と、今思えばそういったことが大前提にありました。先生方は「それが当たり前ではないんだよ」「どういった根拠でそう考えるの?」ということを指摘してくださいます。感動するのは、先生方のあたたかな祈りです。その姿にも教えられます。授業後は、心が熱くなることしばしばです。

3年間を終えて、失敗の連続からの率直な感想は、「なんだ、氷山の一角しか知らなかったのか!」ということ。神さまではないので、すべてのことを知りつくすことは不可能ですが、全領域にわたる神さまの働きは、人間にはとても思いも及ばません。ただ、主は今も働いておられます。そのことは確かです。



◎「教会形成特論」の授業風景

門をたたきなさい

九州バプテスト神学校牧師コース2年

山時 松江 (防府バプテスト教会推薦)



2007年から教会が無牧師になったのを機に、「教会をまもりたい」「何とかしたい」と思い、神学校で学び始めました。初めは聴講生として、興味のある科目を、都合の良い時に学んでいました

とをすすめられ、2013年から新たな気持ちで学び始めました。教会からの支えと、人々の祈りにこたえたいと思いつつも、学びを深め、知識を豊かにすることができず、孤独になって何度も落ち込んだものです。しかし、通信で学んでいる私にとって夏季スクーリングは、学びの友と出合える楽しい時になります。それぞれが課題や不安を持ちながら、画面を見つめて学んでいることが分り、励まされ、仲良くなります。先生方も親しく懇談をしながら、学ぶことの喜びを伝えて頂くと同時に、やはり神学生としての献身を問われます。このスクーリングの期間を通して、主にあつてひとつである安らぎと、主に応答してこられた先輩方の情熱が、さわやかな風のように包み込んで、学ぶ者が新しく変えられていくことを、体験してきました。

「求めなさい。そうすれば与えられる。・・・門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」(マタイ7・7) このみ言葉によって、「私が求め」神学校の門をたたいたつもりでしたが、学びと交流を通して「神さまが」招いておられたことに気付かされた今、自分の思いと計画を超えて、用いてくださる神さまにお応えし、仕えていきたいと願っています。



◎2015年7月スクーリングにて

学びと分かち合い

東京バプテスト神学校教会教育専攻科学生

田中 宣之 (筑波バプテスト教会推薦)



3年前にそれまでの職場を早期退職して東京バプテスト神学校の本科に入学しました。最初の1年間はすべての授業を通学して学びました。2年と3年はインターネットを通して学び、無事に本科を卒業することができました。

夜の学びの時間を確保するために2年前にパートの仕事につきました。神学校で学ぶために今の生活があることを職場でもよく話題にしました。同僚たちと共有してきたのはキリスト教の知識ではなく、むしろ現代社会の有様や歴史観をもうひとつの角度、多様な視点から見直すことを大切にすることにしました。自分で考えて物事からメッセージを捉えること、そこに新たな気づきや学びが多くあることを実感してまいりました。創業者から依頼があり4月から責任者を引き受けることになりました。これまで通り学びを続けながら、新たな実践をさらに積み上げていきたいと思えます。

私は以前から将来は何らかの専門性をもって教会のために働きたいとの夢をもっていました。教会で育てられた私は新しい時代にふさわしい教会の成長と成熟のために、神さまのご計画に用いられることを期待しています。

今私に求められていることは、働きながら学んでいるこの姿のまま主の招きに「応える」ところだろうと思えます。大切なのは自分の力を頼りに学ぶのではなく神さまが用いて学ばせて下さると信頼することだと受けとめています。日頃より神学校のため、神学生のために祈り、支えて下さっている皆さまに心より感謝申し上げます。



◎インターネットによる「ハブル語初級A」のライブ授業